

■よくある質問

Q. 診療補助とはどの程度のことまでするのですか？

患者さんのバイタル測定、医師の使用する処置物品を並べる、患者さんの残薬を数える、など、医療行為以外の補助です。

Q. 在宅医療のイメージが湧きづらいです。診療の現場を見せてもらうことは可能ですか？

はい。随時見学を受け付けていますので、応募前に診療現場やメディカルコーディネーターの働きを見てみたい方はお気軽におっしゃってください。

Q. 自分にできるかどうか不安なのですが、研修制度などはありますか？

入職後はまず、カルテの操作研修をさせていただきます。その後、先輩のメディカルコーディネーターと一緒に訪問診療に同行し、仕事を覚えていただきます。医療知識でわからないことは、気軽に医師にも質問できる環境です。

Q. 入職後、いきなりオンコール当番をすることはありますか？

まずは、日中の診療同行が1人でできるようになってから、開院日夜間のオンコール対応をお願いすることになります。慣れないうちは、何かあってもサポートできるように常勤医師と一緒にオンコール当番をしていただきますので、ご安心ください。

開院日夜間のオンコール対応ができるようになったら、休日のオンコールをお願いすることになります。

Q. オンコールの頻度を教えてください。

月4~5回前後です。

Q. 1人で仕事をこなせるようになるまでにどれくらいの期間がかかりますか？

人によって様々ですが、他業種から入職したスタッフは日中の診療同行が1人でできるまで1カ月弱。開院日夜間のオンコールは入職後1カ月半、休日のオンコールは入職後2~3カ月という目安です。もちろん、個人の力量を見ながら業務調整させていただきます。

Q. 必要なスキルは？

自動車運転、パソコン操作、人とのコミュニケーションは必須です。

Q. 今いるメディカルコーディネーターは、元々どんな仕事をされていたのですか？

病院の看護師、医療事務、調剤薬局の薬剤師、介護施設の介護福祉士、通信建設業の従業員、アパレル企業の販売員など様々です。

Q. MCの面白さはどんなところですか？やりがいを感じるのはどんなときですか？

山田(元病院医療事務)

「病院で働いていたときは診療現場に立ち会うことなく患者さんや家族と接することが多かったのですが、現在は現場に行くことで、患者さんや家族から直接感謝の言葉をいただくこともあり、やりがいを感じています。現場に行くことで、病気はもちろんですが、家族関係や患者さんの人生、患者さんの今後について、見たり考えたりすることが多いです。それを元に職種としてできることは何か、改善点は何かを日々検討していくこともにやりがいを感じています。」

平賀(元調剤薬局薬剤師)

「ドクターの診療に同行することで、ドクターに直接処方提案や薬剤変更の提案がしやすいですし、ドクターの処方意図も理解しやすいので、同行することにはとても意味を感じます。これは単なる薬局の薬剤師ではできなかったことです。

また、YOCには色んな科のドクターがいるので、それぞれのドクターの処方の仕方、アプローチの仕方を直接見ることが出来、薬剤師としての知識を深める事ができています。」

菅原(元通信建設業従業員)

「全てが新鮮です。医療業界は全くの未経験で入職したので、医療関係者とは違った見方で患者さんを見れているのではないかなと思います。患者さんはもちろんですが、ご家族も一緒に病気と戦っておられます。まだ経験が浅いからこそ、長年医療に携わっている医療従事者とは違った角度から、より患者さん目線で意見を言えるよう日々心掛けています。」